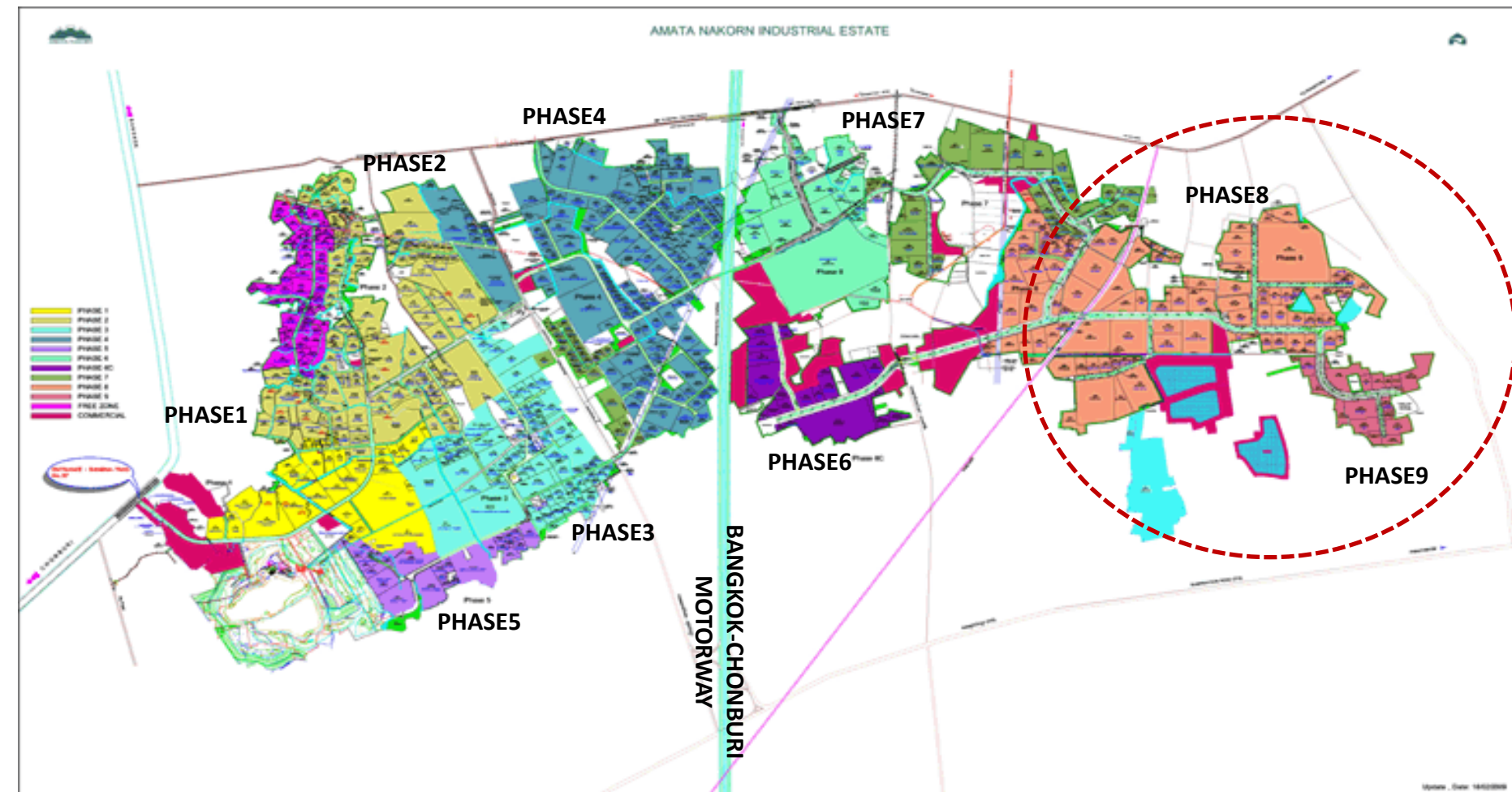


AMATA NAKORN 工業団地

- ・バンコクから東57kmに位置し、バンコク-チョンブリ間モーターウェイをまたいで立地。
- ・500以上の多国籍企業が入居している大規模工業団地。
- ・2011年の洪水では被害なし。そのため、2011年の洪水後にアユタヤから移転してきた企業も多い。



今回は、洪水被害の生じたPHASE8-9、及びその周辺地域を視察。

① PHASE8

- ・AMATA NAKORNは数字順に開発を進めており、PHASE8は比較的新規の入居企業が多い地区。
- ・日系企業では、SIAM KUBOTA TRACTOR, AKEBONO BRAKE, NGKなどが入居している。

TRIUMPH社(米国、オートバイ製造)の工場。
入り口付近が5-10cm程度浸水。



同社周辺の排水路からは水が溢れ、道路に浸水が広がっている。



PHASE1-5では、道路よりも企業の敷地が高くなっているが、PHASE6-9の区域は、道路よりも企業の敷地は低くなっている。冠水が発生すると、企業側に浸水が広がる構造と史料。

② PHASE9

- ・PHASE9は最も新規に開発された区域で、東の外れに位置している。
- ・TMITHが新規に契約した企業も、この地域に複数社存在する。

PHASE9からPHASE10開発予定地へ続く道路は、
軍の出動により高さ30cm程度の堤防が築かれ
通行出来ないようになっている。



堤防の先は、元々道路が続いていた場所。
少なくとも2km四方は冠水しており、写真奥では
ボートを出している地域住民の姿も見える。



PHASE10開発予定地の道路からPHASE9へ続く道路はなだらかな下り坂になっており、堤防が築かれていなければ冠水はPHASE9全域に及んだ可能性がある。

② PHASE9 (その2)

- ・PHASE9は最も新規に開発された区域で、東の外れに位置している。
- ・TMITHが新規に契約した企業も、この地域に複数社存在する。

今後に備え、社員総出で土嚢を作っている
企業の姿も見える(左上)。



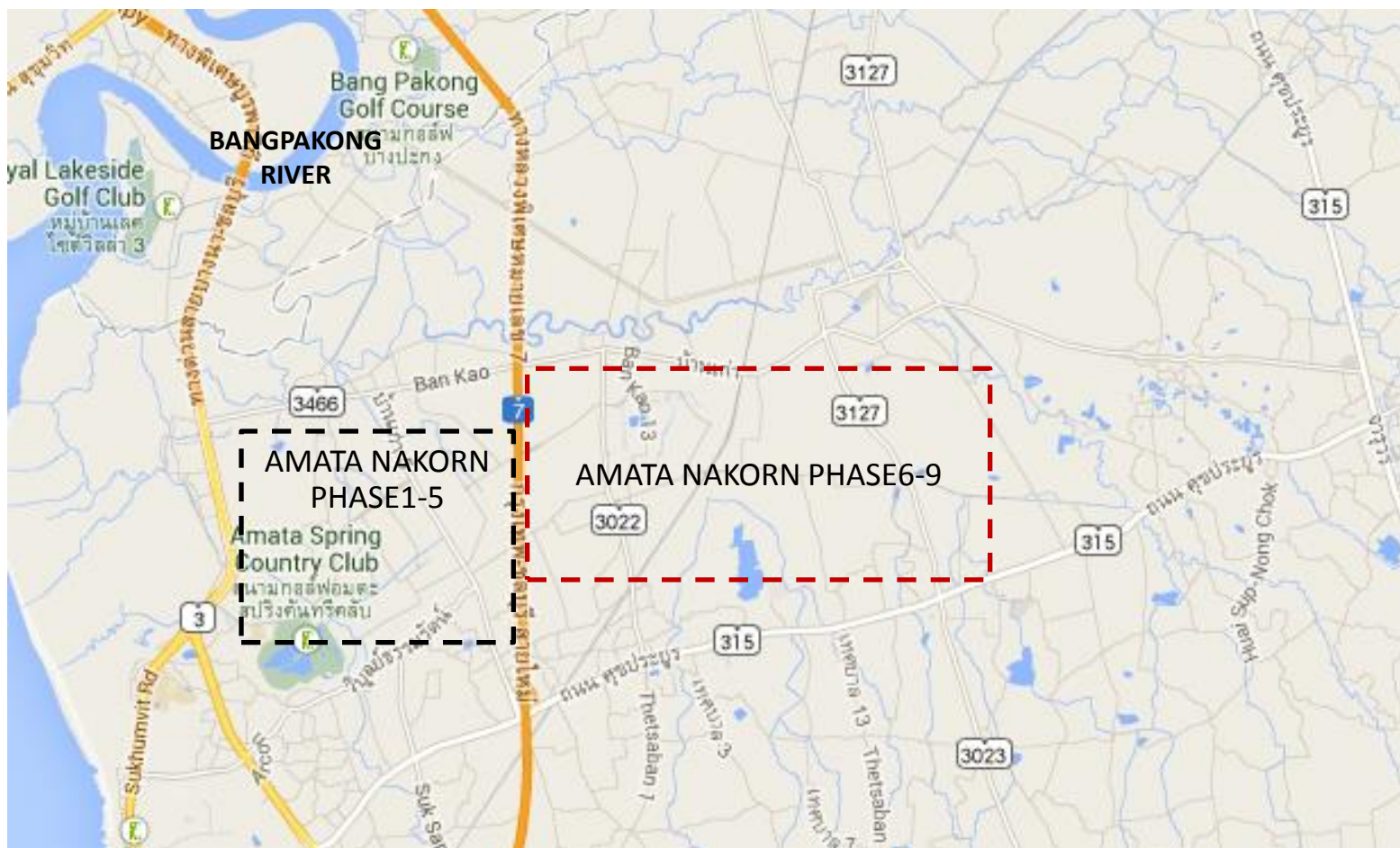
タイ資本と思われるこの倉庫会社では、敷地内に
冠水し駐輪場まで水が到達していた。(但し倉庫
は高床のため、商品への影響は無いものと思料)



PHASE10開発予定地の道路からPHASE9に続く道路はなだらかな下り坂になっており、堤防が築かれていなければ冠水はPHASE9全域に及んだ可能性がある。

③ PHASE8-9の周辺

- ・BANGPAKONG 川からAMATA NAKORN PHASE6-9までの距離は少なくとも6km以上離れている。
- ・PHASE1-5の周辺には河川や池が少ないのに対し、PHASE6-9の周辺には多くの河川や池が存在している。



PHASE8-9の浸水はBANGPAKONG川の決壊によるものではない。周辺の河川や池などから同時に水が溢れ出て、当該地域を浸水させているものと思料。

③ PHASE8-9の周辺（その2）

- ・BANGPAKONG 川からAMATA NAKORN PHASE6-9までの距離は少なくとも6km以上離れている。
- ・PHASE1-5の周辺には河川や池が少ないのに対し、PHASE6-9の周辺には多くの河川や池が存在している。

PHASE8へと続く道路を撮影。HONDA CIVICに乗車していたが、足元やドアに水が当たる音を確認。恐らく、最大で30-40cm程度の浸水。



工業団地側（PHASE9に最も近い道路）から南側を撮影。住宅も浸水している。



乗車時に車が浮きそうになる感覚を覚えた。一般的に50cm以上の水深で車は浮いてしまうと言われているが、セダンではより浅い水深でもそのような事態になる危険がある。

④ BANGPAKONG 川

- ・先週の一部新聞報道では、BANGPAKONG 川から水が溢れているとの情報があったため、念のため確認。
- ・ATAMA NAKORNに近い場所にて撮影。

BANGPAKONG 川は満水位からタイヤ1個分の
余裕がまだある。



感覚的には先週視察したアユタヤ・PASAK川と
同レベルの水量。

